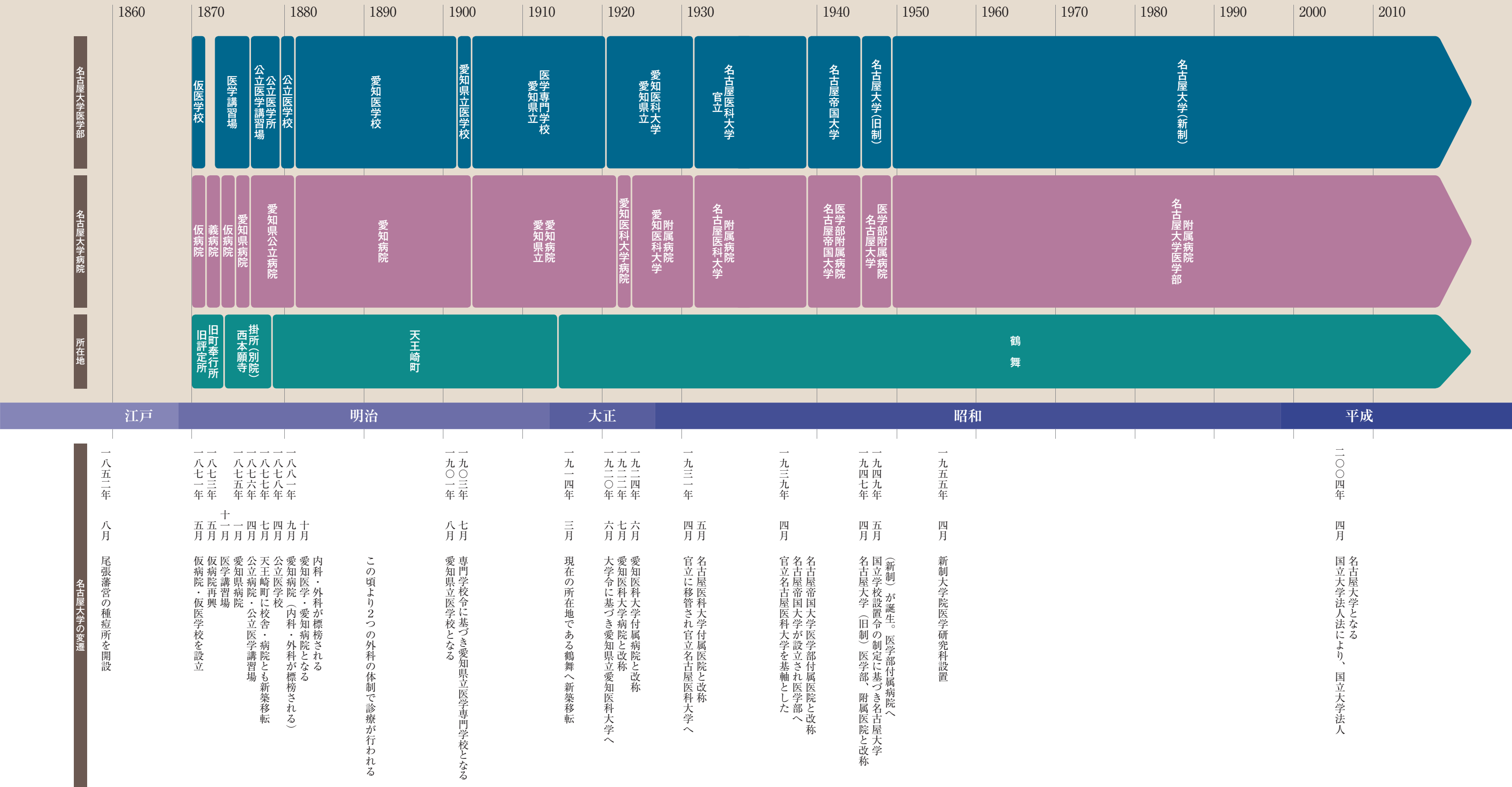




名古屋大学医学部
鶴舞移転 100周年記念
Nagoya University Graduate School of Medicine



名古屋大学医学部の沿革年表



名古屋大学医学部の沿革

名古屋大学鶴舞キャンパスは、現在ある名古屋大学のキャンパスの中で一番古い歴史があり、これは名古屋大学で医学部が一番古い伝統を持っていることを意味しています。

医学部の前身は、名古屋藩により置かれた仮医学校・仮病院です。1871(明治4)年5月、仮医学校は名古屋藩評定所跡(現中区丸の内三丁目)に、仮病院はその西側にあった名古屋町奉行所跡(現同二丁目)に設立されています。その年の廃藩置県により名古屋藩が消滅し、仮医学校は名古屋県立仮医学校として8月に再出発しました。1872(明治5)年の学制変革により、いったん廃校となりましたが先人の努力により義病院として再興され、1873(明治6)年に医学講習場となり、その後、1876(明治9)年に公立医学講習場、公立医学所として改称されました。

1877(明治10)年には堀川東岸天王崎町(現中区栄一丁目)に移転しました。それまでは修築して既存の建物が利用されていましたが、約2万平方メートルの敷地面積に、はじめて医療と医療教育を行う新築の専門施設を建設することになり、北側に医学校、南側に病院が配置されました。



堀川東岸天王崎町の公立病院・公立医学校



四年級病院移転行列

1903(明治36)年に専門学校令と公立私立専門学校規程が公布され、愛知県立医学校から愛知県立医学専門学校へ改称されました。その後、学位取得ができる大学昇格への要望が出されたこと、施設・設備の老朽化などの理由から、1914(大正3)年に敷地面積がほぼ3倍となる、現在の鶴舞キャンパスに新築移転しました。



A 愛知県医学専門学校正面



B 愛知病院正面

移転当初のキャンパスは、西3分の1を学校、東3分の2を病院が占め、東西に2つの正門があり、それぞれの正門と玄関にはロータリーが置かれました。学校には正面に本館、その左右に校舎2棟が広がり、その奥に校舎8棟ありました。また、病院には南から本館が1棟、診察棟が3棟、その北奥に2階建ての病棟が、大小あわせて8棟もある大施設でした。



戦災前の医学部(1939年)



鶴舞キャンパス(1964年)

1918(大正7)年に大学令が公布されたのを受け、1920(大正9)年には愛知県立愛知医科大学となり、1931(昭和6)年には官立に移管され、名古屋医科大学となりました。1939(昭和14)年には総合大学として医学部、理工学部からなる名古屋帝国大学が誕生しました。戦後の1947(昭和22)年には、帝国大学の名称が廃止され、現在の名称である名古屋大学医学部に改称されました。1949(昭和24)年には国立学校設置法が公布され、大学が新制名古屋大学となったのを機に、名古屋大学医学部附属医院から名古屋大学医学部附属病院に改称され、今日に至ります。

2014(平成26)年で鶴舞キャンパスへの移転後、100周年を迎えました。



眼科学臨床講義風景 (1939年)



名古屋大学医学部附属病院 (1991年)



名古屋大学医学部附属病院に移築した愛知病院正門遺構



鶴舞キャンパス航空写真 (1958年)



鶴舞キャンパス航空写真 (2003年)



鶴舞キャンパス航空写真 (2010年)



1 仮病院、仮医学校等

1871～73
旧町奉行所・評定所 / 旧 愛知県産業貿易会館
[中区・外堀通本町交差点 (本町橋)]



2 医学講習所～公立医学所、仮病院～公立病院

1873～77
西本願寺掛所 / 現 西本願寺別院
[地下鉄鶴舞線大須観音駅]



3 公立医学所～愛知県立医学専門学校、公立病院～愛知病院

1877～1914
天王崎町 / 現 洲崎神社北側
[中区・若宮大通堀川新洲崎橋東詰]



4 愛知県立医学専門学校～医学部

1914～
現 鶴舞キャンパス
[地下鉄鶴舞線鶴舞駅]



愛知医専の正門遺構